

## 自宅前の建設 抗議中に逮捕

写真は朝日 11 月 1 日夕刊「現場へ!」。お世話になった伊藤智章・編集委員が、名古屋の「マンション紛争」事件を紹介している。でっち上げ事件の犯人とされた奥田恭正さんのご自宅、高層マンション建設現場には何度も行き、現地や裁判についてレポートを書いてきた。記事を抜粋して紹介する。

「手錠をかける」。鋭い声に、自分から両手を差し出していた。2016 年 10 月 7 日朝、名古屋市瑞穂区の薬局経営、奥田恭正さん(65)は自宅前の高層マンション建設に抗議中、暴行容疑で愛知県警瑞穂署に現行犯逮捕された。現場監督を突き飛ばし、走行中のダンプに接触させたという疑いだ。

現場は電機メーカーの社員寮跡地。寮は 3~4 階建てだったが、マンションは市道沿いを 15 階建て、奥を 6 階建てにするという。驚いた。父の代から住むのはほとんどが戸建ての住宅街だ。だが、市の都市計画では市道から 20 歩は「近隣商業地域」で、高さ 45 歩まで許されているというのだ。説明会の録音が残っている。日照や風の害は？戸建てにしてくれないか。だが、業者は「法令の範囲内の計画」と言うばかり。本当か。都市計画ってなんだ。奥田は市に問い合わせた。

近所で住環境を守る会をつくった。のぼりを立て連日、現場前の歩道で抗議した。だが、取り合ってもらえなかった。建設業者の通報で頻りにパトカーが来た。奥田は自分から署に出向き、説明したこともあった。確かにあの朝、現場監督と相対した。粉じん対策の水まきを求め、押し問答にはなった。監督が突然後ろに倒れ、通報した。やっていません。でも「防犯カメラに映っている」と言われた。14 日間勾留され、否認のまま釈放された。怒ったのは仲間たち。市民団体「景観と住環境を考える全国ネットワーク」の名古屋集会で報告すると、「住民運動つぶしじゃないか」。計画段階から犯罪を処罰できる「共謀罪」の国会審議が始まり、「マンション反対運動も対象になる」という例に挙げられた。

裁判の見通しは甘くなかった。日本ではいったん起訴されたら有罪率は 99%。薬局を続けられるか、不安だった。劣勢をはね返したのは、防犯カメラ映像の解析だ。法廷で私も映像をみた。監督が大きく手を広げて倒れていく。でもよくみると、カメラは奥田の背後上方にあり、手元は映っていない。監督が倒れる瞬間、奥田は右足を後ろへ引いている。突き飛ばすなら前へ踏み込むはずだ……。名古屋地裁は 18 年 2 月、「犯罪の証明がない」として無罪を言い渡し、確定した。奥田は自宅に「業者の悪行絶対許さない」という看板を掲げたまま。県や監督らを相手に損害賠償請求訴訟を起し、採取された DNA の抹消も求め、争う。



(2021 年 11 月 3 日)